

安威川ダム周辺プランワークショップ④（最終回）

みなさんが考えた成果を共有しよう！

2015.11.7.
saturday



最終のワークショップを開催し、 みなさんが考えた成果を共有しました。

2015年11月7日（土）、安威川ダム建設事務所5階大会議室にて、最終回となる第4回ワークショップを開催しました。今回のテーマは「みなさんが考えた成果を共有しよう！」。前回に引き続き、空間イメージの改善案を話し合いました。また、10月31日（土）に開催された安威川フェスの活動報告や、今後の展開についての共有をおこないました。

模型を見ながら空間イメージを把握しよう

周辺整備を検討する専門家によるとりまとめチームより、前回（第3回）ワークショップで話し合われた、空間イメージに対する評価、必要とされるヒト・モノ・コトのアイデアの両意見を反映したプランが提示されました。上流部はより自然との距離を縮めたエリアに、車作橋周辺はスポーツやキャンプ、様々なレクリエーションを通じて地域コミュニティや地域間交流がうまれる地域コミュニティとスポーツの活性化を重視したエリアに、ダム周辺部は拠点施設や眺望等、ダムの全体像を楽しめるエリアにと、それぞれの改善点の説明がありました。参加者は、模型を囲み、安威川ダムやその周辺の全体像を把握しながら各空間イメージの共有をしました。

プログラム

1. 開会のあいさつ
2. 前回の振り返り
3. 専門家による資料解説
4. テーブルワーク
5. 安威川フェスティバルの報告
6. 今後の活動へ向けて
7. 閉会のあいさつ
8. 交流会



空間イメージの改善点を考えよう

5つの班に分かれ、周辺整備を検討する専門家によるとりまとめチームが改善した空間イメージに対して、さらに改善できると思うアイデアを話し合いました。この時間の前半は、各班が前回（第3回）のテーブルワークで意見を出したエリアに対して、後半は、他のエリアに対しての改善案を話し合いました。ブラッシュアップを重ねることで、各エリアの特徴をより明確にすることができました。



- ① みどりに包まれた権内せせらぎ広場
- ② 自然を楽しむ学びの川原
- ③ 車作橋を望むアウトドア・スポーツフィールド
- ④ 水辺のオートキャンプサイト
- ⑤ 湖面を望むレクリエーションパーク
- ⑥ ビジターセンター前のコモンスペース
- ⑦ 湖面とダムを望むつり橋
- ⑧ ダム湖エントリースイト
- ⑨ ダムを背景とした小川公園
- ⑩ 自然遊歩道の眺望スポット

各テーブルごとのアイデア

A班

- ① みどりに包まれた権内せせらぎ広場
- ② 自然を楽しむ学びの川原



② 自然を楽しむ学びの川原

ふたつのエリア共に、川が流れており、木々に囲まれた特徴があります。キャンプなど自然を活用し楽しむ一方で、きちんと自然を保全する仕組みの必要性や、それぞれのエリアの使い方を差別化させる必要性が意見としてあがりました。現状の自然環境でもできる利活用アイデアを考えることで、ハード整備を少なくし、豊かな自然環境を維持できるのではないかと意見もあがりました。

B班

- ③ 車作橋を望むアウトドア・スポーツフィールド
- ④ 水辺のオートキャンプサイト
- ⑤ 湖面を望むレクリエーションパーク

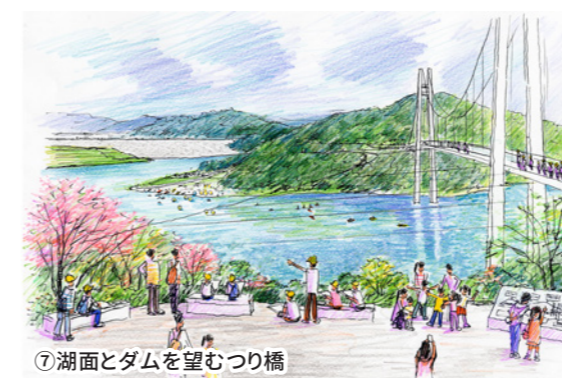


⑤ 湖面を望むレクリエーションパーク

「水辺のオートキャンプサイト」では、ダム建設や時代の流れにより、農業などの地場産業による地域コミュニティが変化を見せつつある中で、スポーツや農作物を通じた地域振興・コミュニティの再構築の必要性が考えられました。「車作橋を望むアウトドア・スポーツフィールド」では、広いスポーツエリアの中でも、スポーツの種目に合わせたコートや整備をする等、それぞれの種目に適した棲み分けが行われる工夫の必要性があげられました。

C班

- ⑥ ビジターセンター前のコモンスペース
- ⑦ 湖面とダムを望むつり橋



⑦ 湖面とダムを望むつり橋

ダムや湖面の景色は、重要な魅力になることから、つり橋は絶好の視点場となること、またつり橋自体が景色を構成するポイントになることから、左岸道路沿いの空間（広場）はビューポイントとして活用できること等が話し合われました。また、ビジター拠点施設については、市民活動等に必要の備品を収納できる倉庫を設ける必要性があげられました。



⑧ダム湖エントリーサイト

D班

⑧ダム湖エントリーサイト

主に、安全面に対する意見があがりました。具体的には、遠浅ができることは利活用にとって良いことである一方、危険のないようにどこまでが遠浅になっているのかを明確にすべきといった提案がありました。また、ダム湖の冠水水域内における駐車場への夜間侵入防止を目的にアクセス道路の最高水位の高さの位置に出入口の門扉を設ける必要があるといった意見がありました。



⑨ダムを背景とした小川公園

E班

⑨ダムを背景とした小川公園

⑩自然遊歩道の眺望スポット

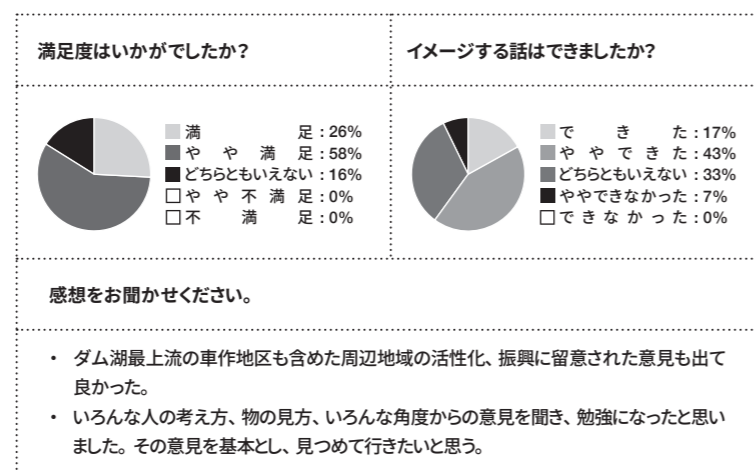
ダム直下流の広場に関する意見として、子どもたちが遊べそうな空間が広がる小川に、生物が棲んでいれば楽しそうという意見があがりました。また、親水空間の利便性向上のための意見として、小川に小段を設けることが提案されました。展望スポットについては、ダム堤体を側面からだけでなく別の角度からも楽しめるような視点場づくりの提案がありました。

交流会

ワークショップ終了後に、参加者、運営スタッフを交えた交流会をおこないました。これまでのワークショップを振り返り、話がつきない会となりました。

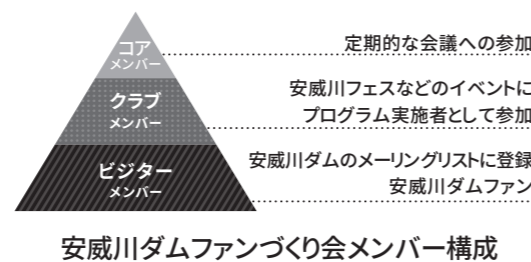


第4回ワークショップについてのアンケート結果



安威川ダムファンづくり会について

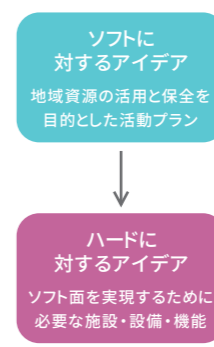
本ワークショップは閉会となりますが、引き続き府民のみなさまに参加いただけるように「安威川ダムファンづくり会」への呼びかけを行いました。ワークショップ参加者からは22名の参加希望が表明されました。コア・クラブ・ビジターと参加できる度合いに合わせて活動できるようにしたいと考えています。安威川ダムファンづくり会の活動については、www.aigawa.jpで紹介しています。



安威川ダム周辺プランワークショップのふりかえり

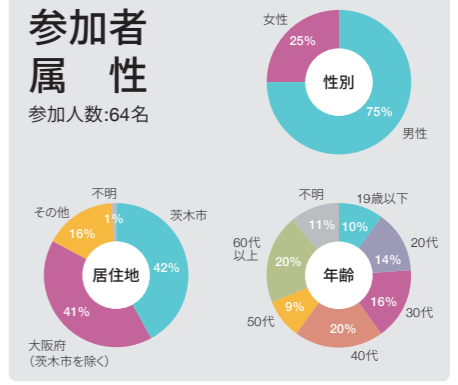
ワークショップの考え方

本ワークショップでは、公募で参加者を募り、全4回を通じてダム周辺の活用と保全について考えました。ダム周辺の風景や生態系、文化などの資源を探り、それらを活用・保全する使い方(ソフト)を先行で考え、その後ソフトを実現するために必要な整備(ハード)を考えたことが大きな特徴です。従来のハード先行型とは違い、利用者が求めるプログラムがより実施されやすい空間を形づくることができると考えています。



参加者属性

参加人数:64名



ワークショップのふりかえり

第1回(平成27年6月27日)

- ・ダム建設現場や周辺を見学し、周辺地域への理解を深めました。
- ・ダム完成後にやってみよう活動などのアイデアを出し合いました。

●主な意見

- ダム周辺の自然環境を守り、育てていく必要がある。
- 自然を生かした環境学習や湖面利用のスポーツをやってみよう。
- 「やってみよう活動」だけでなく、地域の資源と連携した活動アイデアを話し合いたい。



第2回(平成27年8月29日)

第1回で出されたアイデアに対し、利用・活動する対象者や管理・運営が想定される団体等を念頭に、ダム周辺での活動について検討しました。

●主な意見

- 水と親しむことの安全性について学ぶ場をもうける。
- 地域住民と来訪者が交流できる場を設け、ダムがあるこの地域でしか体験できないことをする。
- 生態系の調査や森林を間伐するイベントを企画する。



第3回(平成27年10月17日)

第2回までのアイデアを基に空間イメージを作成し、良いと思ったことや不足していると思ったことなどの意見交換を行いました。

●主な意見

- 上流部は環境を維持できるように、キャンプやBBQはしない方が良い。
- 日常に触れることがないダム湖面を利用できるのは、安威川ダムならではの魅力である。
- ダムの展望を活かした四季を楽しめるような景観づくりをする。
- ダム周辺を巡るようにハイキング道とのネットワークを考えると良い。



本ワークショップには茨木市内住民に留まらず大阪府内・外の幅広い年齢層の方が参加されました。ダム周辺地域に居住される方が参加されたことで、地元外の方の意見を補完していただけただけで、地元が求める声を出して頂けたことは大きな成果といえます。

今後の展開

本ワークショップで参加者のみなさまより提案された意見やアイデアを、専門家(ランドスケープ、建築、アート、周辺環境・観光、土木の各分野)によりとりまとめます。その成果を基に、大阪府と茨木市により、安威川ダム周辺の保全・整備に向けた実施方針を作成します。